



ゆるやかにつながる家

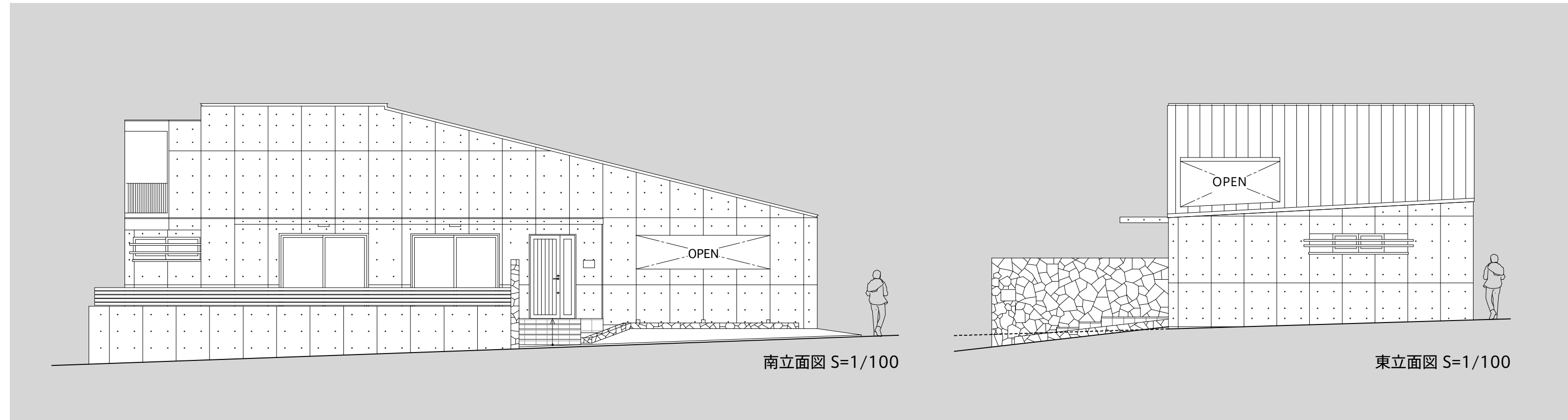
—風土を考慮したコートハウスを考える—

「コートハウスみたいな閉じた家になりたい」
 施主からそういう要望がありました。
 コートハウスは中庭を設けることによって、
 外部を閉鎖的にしつらえることができます。
 しかし、閉鎖的な家にはいろいろなデメリットもあります。
 先人の沖縄の家は亜熱帯気候の特色を生かし、
 緩やかに町並みや外部へとつながります。
 そのような、風土も生かしたコートハウスを
 つくれなかと考えたのが今回の住宅です。
 外部と内部が緩やかにつながる。
 内部は個室も含めて1つのワンルームのようにつながる。
 閉じていて開いている家。
 そのようなイメージを元にこの家は完成しました。
 庭にも植栽が行き渡ったとき、そのイメージが
 体感できるものと思っています。



設計のポイント

1. 完全に閉じない・・・適所に開口部を設けてプライバシーを守り、通風など内部の環境を確保する。
2. 過剰に塀をつくらない・・・敷地の有効利用とコストの削減。過剰に防衛しない。
3. 植栽の活用・・・景観をよくする。手入れができるのでつなりの調整が容易にできる。
4. 吹抜を中心とした間取り・・・玄関、個室などがつながり、公私のバッファゾーンとなる。
 また、上下方向の排熱経路としても活用する。



DATE
 家族構成：夫婦、子供3人
 敷地面積：241.98㎡ (73.20坪)
 建築面積：118.74㎡ (35.92坪)
 1階床面積：111.29㎡ (33.67坪)
 2階床面積：44.93㎡ (13.59坪)
 延べ床面積：156.22㎡ (47.26坪)
 軒高：5.5m 最高の高さ：6.0m
 構造・規模：RC造 2階建て
 竣工：2009年8月

